

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立不動岡高等学校)

目指す学校像	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成 科学教育と国際理解教育の拠点校として地域文化への貢献
--------	---

重点目標	1 教育活動及び学習活動の工夫・改善を図り、「これからの時代に求められる力」を養成する。 2 学力を向上させるとともに高い志を育み、第一志望校への進学を実現する。 3 「質実剛健」「明朗質素」「文武両道」を日々実践する生徒を育成する。 4 さまざまな機会を通じて「不動岡高校ファン」を増やす。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 ○本校生徒の実態と高大接続システム改革や次期学習指導要領をふまえ、進路希望の実現につながる指導法等の研究及び実践に一層取り組む必要がある。 ○SSH/SGHの成果を生かした教育活動の充実と通常の教育活動として定着させることが求められる。	1 高大接続システム改革等に対応する指導法・学習法と評価法の研究	・「主体的・対話的な学び」を促す指導改善のより一層の推進 ・「学力の3要素」をふまえた指導及び評価の工夫と観点別評価の研究 ・自主的・計画的な学習を促す指導の充実 ・次期学習指導要領や大学入学共通テスト、英語4技能検定に関する情報収集と生徒への周知	・ICTを活用するなど「主体的・対話的な学び」を促す授業の実施率 ・授業進度や指導及び評価の工夫の状況と生徒の授業理解度 ・SSH/SGH事業の実践例をふまえた観点別評価の研究状況 ・家庭学習時間及び早朝学習生徒数、取組状況 ・職員への情報提供及び生徒への周知の状況		
			・SGH指定終了後の発展的な教育活動の具体的内容の検討 ・外国語科等の教育活動の指導法・成果等の授業等における活用	・SGH事業から学校全体への取組に移行した教育活動の実施状況 ・外国語科等の教育活動や諸事業に参加した生徒の意欲や資質の変化		
			・SSH事業への取組の充実 ・Fプラン等の探究学習を始めとし様々な機会を通じて「思考力」「試行錯誤力」「発表力」の育成 ・ことばの力、メディアリテラシー等の育成 ・新教育課程検討委員会を設置し、新教育課程を編成	・SSH事業の中間評価 ・Fプラン等の実施状況と生徒の取組状況 ・アウトプットを重視した授業の実施状況や課題研究等の成果発表の状況 ・図書貸出数、図書館活用の授業の実施状況 ・新教育課程編成の進捗状況		
			4 次期学習指導要領をふまえた新教育課程の編成			
2	【現状】 ○現役進学志向も強いが、地方国立大学も視野に入れ国立大学志望、第一志望大学への進学希望を貫こうとする生徒が増えてきた。 ○SSH/SGH等の探究活動の成果を活かし進路希望を実現する生徒も現れた。 ○本番で実力を発揮できない生徒やセンター試験が目標になっている生徒もいる。	1 早期に高い目標を設定させ、実現させるための計画的な進路指導の実践	・Fプラン等を活用した初期指導の徹底 ・授業を柱にした学習習慣の確立 ・系統的な進路行事の開催とデータや面談ノートを活用した面談の実施 ・社会で活躍する卒業生による意識啓発	・進路希望における目的意識の高さ ・進路希望実現を意識した授業への集中度、予習・授業・復習のサイクルの状況 ・面談等による生徒の進路意識の変容と支援 ・卒業生を活用した指導の状況と生徒の意識		
			・学年・分掌・教科等の連携による自発的・自律的学習者の育成 ・生徒・保護者に対する情報提供、保護者面談・PTA活動等における進路情報の共有・意識啓発	・日常的な課題等を活用した計画的指導の実施状況 ・「進路だより」等の積極的な活用状況 ・模試等の結果による進学希望の変化 ・保護者の進路意識の状況		
			3 生徒の進路希望に応じた指導の充実と学年・教科・分掌の連携による支援体制の強化	・入試結果や入試問題の分析、指導法の研究状況 ・授業以外の指導の実施状況と生徒の参加状況 ・学年、分掌、外部機関等と連携した相談活動の実施状況		
3	【現状】 ○部活動・学校行事への参加意欲が高く、本校生としてふさわしい行動をわきまえ、自律の意識が醸成されつつある。 ○公共の場所での自律心をさらに磨くことも必要である。	1 本校生としての誇りをもち校外でふさわしい行動をとれる指導の実践	・風紀委員会・部活動等を活用した挨拶をはじめとする基本的な生活習慣の確立 ・清掃への取組等による公共意識の啓発 ・学校施設・設備の利用意識の啓発	・不動岡生としての誇り、社会に貢献する意欲の向上 ・あいさつ運動等の取組と日常の状況 ・清掃への取組と日常的な施設の利用状況		
			・主体的・自律的な部活動・学校行事への取組を通じた集中力の育成と豊かな人間関係づくり	・部活動への生徒の加入状況、活動状況 ・目標達成に向けた取組、勉強との両立、負担などメリハリのある部活動の計画と実施 ・学校行事への取組状況及び行事による資質向上		
			3 交通マナーの徹底、インターネット等との自律的な関わり方指導の充実	・交通指導の実施、HRにおける継続的な指導 ・SNS等情報マナー・消費者教育に係る意識啓発事業の実施と日常的な注意喚起 ・風紀委員会を活用した自主規制の順守		
4	【現状】 ○HPや学校内外の説明会等を通じて積極的な情報提供・意識啓発がされている。 ○PTA活動や地域との交流事業を活用した貢献の充実が期待できる。	1 学校HPの更新を含めた積極的な情報発信による保護者との協力体制強化	・分掌・学年・部活動による積極的な情報発信 ・保護者とのネットワークづくり	・HPや学年通信等による情報発信の状況 ・HPの更新状況 ・学年別保護者会、PTA支部・理事会等を活用した保護者の意識啓発の状況		
			・本校の特長への理解を促す学校案内作成 ・生徒募集対象地域、対象生徒を考慮した説明会等の実施内容・方法の見直し	・学校案内の中中学生等にとってのわかりやすさ ・説明会等の工夫・改善の状況、参加者数		
			・地域における科学・国際理解教育、スポーツなどの拠点校としての事業の実施	・不動岡市民大学、小中学校との交流事業、出前授業、サイエンス教室等の実施状況 ・各種事業への小中学生や一般住民等の参加状況		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成 年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		